

哲 學 研 究

第 三 十 一 卷 第 十 一 冊

第 三 百 六 十 八 號

昭 和 二 十 三 年 二 月 二 十 八 日 發 行

印度美術論の宗教性………文學士 上野照夫

中觀哲學の根本的立場(承前)………文學士 長尾雅人

「美しい魂」の形成における
カントの所謂「性格」の意義………文學士 小田武

——人間革命における教育學の使命——

京 都 大 學 文 學 部 內
京 都 哲 學 會

京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其ノ普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一 毎月一回研究會ヲ開ク
 - 一 毎年公開講演會ヲ開ク
 - 一 毎月一回哲學研究ヲ發行ス
- 第四條 本會ノ事務所ヲ京都大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一 委員(若干名)京都大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
 - 一 書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得、學校、圖書館、教育會、其ノ他團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年百八十圓、前後二期ニ分チテ前納スルコトヲ得
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得、且ツ雜誌『哲學研究』ノ配布ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學博士	白井二尙
文學士	上野照夫
文學士	小田武
文學士	重澤俊郎
文學博士	下程勇吉
文學博士	島芳夫
文學士	關原太郎
文學士	高田三郎
文學士	田中美知太郎
文學士	野田又夫
文學博士	久松眞一
文學博士	本田義英
文學博士	矢田部達郎
文學博士	山内得立
文學博士	井島勉

である。そして児童を社會生活に於ける有能な干與者にするこ
とが教育の目的となり、それを達成するための條件として(一)
社會的理解(二)社會的態度(三)社會的熟練が擧げられる。
ところでこのやうなコンミニュニテイ・スクール概念が我が國
に受容される場合に注意すべきことは、児童中心の教育を徹
底したアメリカと異つて、我が國は児童中心教育を殆んど通つ
てゐないが故に、コンミニュニテイ・スクールに示される精神を
十分にとり入れなければ社會的需要によつて児童を壓倒してし
まふ危険があるといふことである。従つてデュイイの立場が兒
童中心に先んじてなされた社會中心の考へ方であるといふ點に
於て、現在の段階に於ける我が國の教育に適するものとなると
いふ結論を見出された。

(蜂屋 慶)

前 號 目 次

宗教藝術の基本的契機……文學士 河本 敦夫	「大學の理念」の史的展開……文學士 森 昭
シラアの美的立場……文學士 吉田 忠勝	

會 告

- 一 本會へ入會希望者ハ京都市田中西浦町弘文堂書房
内京都哲學會係宛ニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)ニ
送料ヲ加算シ御納付ノ上御申込被下度候
- 一 會員ノ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切)ノ事務
ハ弘文堂書房内京都哲學會係へ御通知被下度候
- 一 會費ハ「振替口座京都一九五五六番 京都哲學會」
宛ニ御拂込被下度候
- 一 前金切レノ場合ハ帶封ニ「前金切」印章押捺致ス
ベキニ付直ニ御拂込下サレ度候
- 一 本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄贈雜誌
等ハ凡テ本會宛ニ御發送被下度候

京都大學
文學部内 京都哲學會

註 文 規 定

- 一 會員にあらざる購讀者の御注文及び廣告に關する
件は「弘文堂書房」へ御申込下され度候
- 一 本誌の御注文はすべて代金郵税共前金にて御送り
下され度候
- 一 特に請求書及び領收書等を要する場合は郵券五十
錢御送付下され度候

昭和二十三年二月廿五日印刷納本
昭和二十三年二月廿八日發行

編輯人 京都大學文學部内

右代表者

小田 田 武

發行兼印刷人 八坂淺太郎
東京都千代田神田駿河臺四ノ四

印刷所(京都支) 弘文堂印刷部
京都市田中西浦町四〇

配給元 日本出版配給株式會社
東京都千代田神田淡路町二ノ九

發行所 弘文堂書房
東京都千代田神田駿河臺四ノ四

定 價		冊 數		價 格		郵 税	
一冊	十五圓	六冊(前金)	九十圓	金五十錢	金三圓		
三冊(前金)	百八十圓			金六圓			

(誌代の變更による會費の過不足は
半年又は一年毎に精算いたします)